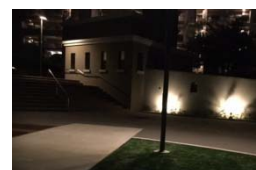


2017 年を振り返る

ことし 2017 年も今日で終わりだ。暦がひとつ進むだけではあるが、例年のように、なんだか 1 年を振り返りたくなる。

ことしも楽しいこと、嬉しいこと、辛いこと、悲しいこと、怒りに燃えたことなどがあつた。まずは、病気らしい病気もせず、1 年を無事に過ごせたことを喜びたい。黄斑円孔という目の病気で入院・手術して、2 年が経過した。定期的に検査に通っているが、いまのところ異常なしだ。

長年悩まされてきた腰痛も、名古屋市瑞穂区のウェルネスはやし鍼灸院に通い続けて、だいぶ楽になった。温かい鍼灸とスタッフの気持ち「ようつう」じて、岩盤のようであった腰も軟らかくなってきた。



写真は自宅ベランダから撮った朝焼けの空。昨年は団地リニューアル工事により、長い間

ベランダから朝焼けや夕焼けが見られなかった。ことしは新装ベランダや階段から東と西の空をじっくり眺められ、多くの写真を撮り、フェイスブックで発信してきた。夜の広場にも帰宅途中にたたずみ、夜空と光の輝きにより、しばし暗い気持ちをなごませた。



ことしも名古屋大中央図書館に毎日のように出かけた。本山から四谷通りを歩いたが、体調管理のうえで役に立ったようだ。図書館通いは、単調な生活に「リズム」をつけてくれた。毎朝 4 時に起きて書き続けてきたレポートも、生活に「リズム」をつけるとともに、情報発信の貴重な場となっている。10 数年にわたり、毎朝レポートをサイトにアップしてもらっている中村さんに、あらためて感謝したい。レポートをフェイスブックに投稿しているので、読者もだんだん増えているようだ。読者のひとり、ベテランジャーナリストの遠藤雄久さんが急逝したことは、ことしの悲しい出来事のひとつだ。

怒りに燃えたことも多かった。いくつかをレポートに書いてきたが、なんと言っても安倍政治が続いて、日本の戦後、平和が脅かされつつある。安倍晋三首相と昭恵夫人をめぐる「もりかけ疑惑」は、政治の私物化と腐敗を象徴するものだ。疑惑隠しのために大義なき総選挙を強行したが、「小池騒動」と民進党分裂という風も吹いて、自民大勝となった。憲法 9 条改悪が現実味を帯びつつある。

日本の政治は「10・22」が、私にとっては、「12・4~5」が転換点になりそうだ。わたしの転換点については、あす 2018 元旦のレポートで書くことにしよう。



(2017 年 12 月 31 日)